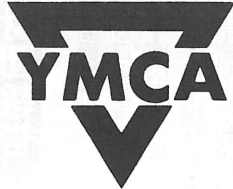


創立1880年



東京YMCA

2008 3 月号

発行所 東京キリスト教青年会 発行人 新井廣和
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

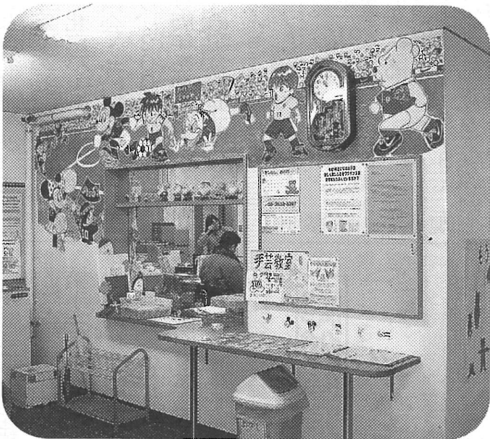
URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

『江東区立東雲児童館』管理運営を受託

（助）東京YMCAは2008年4月より、指定管理者として、『江東区立東雲児童館』（江東区東雲2-4-4）の運営をすることとなった。東雲地域ではこれまでに「YMCAキヤナルコート保育園」「東雲第二児童クラブ」（いずれも2003年8月より）、「東雲ファミリーセンター」（2003年10月）の運営を、さらには「オリブ保育園」（2005年4月）、「東雲第三児童クラブ」（2007年4月）の運営を担い、地域での子育て支援や青少年健全育成、多世代の交流などに力を注いできた。夜明け、朝あけを意味する『東雲』の名にふさわしく、新しいコミュニティを形成する場として、今後も幅広い活動を展開していく。



地域ファミリーと夢・未来を創る 新しい子育てスタイルを応援

東雲は有明と豊洲の中間に位置し、高層都営住宅の他、高層マンションも次々と建設され、近年人口増加が進んでいる地域である。今回の東雲児童館の指定管理は、既に江東区により運営されている児童館を引き継ぐ形となる。児童館の他に、児童クラブも併設され、約70人の児童が児童クラブに通っている。児童館は星和江館長が指導のもと、東雲地域の児童健全育成事業として、なくてはならない位置を占めるようになっていく。

東雲児童館運営は、東京YMCAとして既存委託事業である「第二児童クラブ」「第三児童クラブ」「キヤナルコート保育園」「オリブ保育園」とあいまって、地域を面として捉えた場合の地域としての子育て支援、児童健全育成事業、そして、地域コミュニティ形成の拠点となることを期待されている。

東雲児童館を利用する子どもと家族には在日外国人も多く含まれ、お知らせも漢字にはすべてカナをふっているという。

『文化の違いを知る良い機会となり、また、どうお互いを理解するのか試される場でもある。国際青少年団体であるYMCAにも多いに期待したい』と星館長は語られる。

また高層型住居が多く、核家族化が進んでいる地域でもあり、子育て支援も重要な役割である。

『児童館や児童保育へ来られる保護者との日常の関わりや気楽に立ち話する中より、すでに子育て支援は始まっており、相談や他機関へつながるなどコーディネート役も求められる。今、赤ちゃんサロンといった場から、自主的なグループ活動も行われている』と星館長。

今後は、中学生グループの育成、地域コミュニティへの関わりとして町内会や企業との連携、高層マンション地域での地域づくりも長期的な課題となって来る。

東京YMCAの総合力を活かし、東雲地域の働きを覚え、協力していくことが期待に込める一翼を担うことになる。

◇先日、25年以上前のボランティアーターOと淋しき、そして大きなBと呼ばれ、懐かしい人々との機会がありました。立派な社会人となり自信を持って生きている姿を見た時、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」（マルコによる福音書1章17節）とイエスに言われ、ついて行った弟子を思い浮かべました。

◇3月は、YMCAの専門学校で育った若者をそれぞれの社会に送り出すの練習先を訪ね、励まされ、心から敬意と感謝を覚えます。

◇学生の心を溶かすべく、課題に向かう姿勢を整え、厳しい季節にも彼らの実習先を訪ね、励まされ、心から敬意と感謝を覚えます。

総主事室から

神に選ばれた働きとは

に、心から敬意と感謝を覚えます。

◇学生の心を溶かすべく、課題に向かう姿勢を整え、厳しい季節にも彼らの実習先を訪ね、励まされ、心から敬意と感謝を覚えます。

◇3月は、YMCAの専門学校で育った若者をそれぞれの社会に送り出すの練習先を訪ね、励まされ、心から敬意と感謝を覚えます。

◇学生の心を溶かすべく、課題に向かう姿勢を整え、厳しい季節にも彼らの実習先を訪ね、励まされ、心から敬意と感謝を覚えます。

赤三角

いろいろな状態の子どもたちと関わっているとき、どう対応したらいいのでしょうか？という質問をよく受ける。そして質問者は、具体的な解決策を求めてくる。しかし私は、その人とその子の関係が良くなるまで、具体的な解決策を求めない。『具体的な解決策などアドバイスできるのだろうか？』と考えさせられることが多い。▼人と人との関係は相互関係であって、一方的な関係ではない。だから「私がやってみよう」と「別の人がやってみよう」ということは、全く別の問題だと思ってしまう。また物の考え方や見え方も人によって全く違っている。▼2人の子どもが仲良く遊んでいる場面も、ある人から見ると「こわい」という無力関係が垣間見え、「実は片方の子どもは一人ぼっちでいることが寂しくて、本当は別の事がしたいけれども、その子と一緒にいる」と感じることがある。さらに、同じ場面を見ていた人同士で話をしているとき、ある人は「こわい」と指摘しつづき、またある人は、そうした場面が全く見えていないこともある。このように同じ状況でも、人によってその見え方、感じ方が異なるのが現実なのだ。▼子どもと関わる上で、「どんなまなざし」でその状況を見ることができ、か「そしてその状況と自分との関係の中で、自分が何をすべきか」を判断する分別をつけることが大切なのではないかと考えている。(A・M)